

平成29年度

# 事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

<本編>

I. 法人の概要	1
II. 事業の概要	7
1. 学園全体	7
2. 森ノ宮医療大学	9
3. 森ノ宮医療学園専門学校	26
4. 森ノ宮医療学園附属診療所	33
5. 森ノ宮医療学園出版部	41
III. 財務の概要	46

学校法人森ノ宮医療学園  
大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成した。

# I. 法人の概要

## 1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

## 2. 学校法人の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校(大阪市東成区)
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒業教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
平成14年(2002)	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学(大阪市住之江区)
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと包括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ(学生食堂)オープン
平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
平成26年(2014)	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
平成26年(2014)	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設 保健医療学部に臨床検査学科、作業療法学科を開設
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学 新棟(キャナルポート)竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入
平成29年(2017)	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所(ERP 下鴨南治療院)開業
	12月	森ノ宮医療大学 西校地南側を運動施設(グリーンスクエア)に整備
平成30年(2018)	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院(日生病院)と相互連携協定締結
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学(Curtin University)と連携協定締結

### 3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区中本4丁目1番8号		
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	
	森ノ宮医療大学	大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(修士課程)		2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科医療科学専攻(博士後期課程)		3	2	0	6	開設年度 平成30年度
		保健医療学部鍼灸学科		4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部理学療法学科		4	70	0	280	
		保健医療学部看護学科		4	90	0	360	開設年度 平成23年度
		保健医療学部臨床検査学科		4	60	0	240	開設年度 平成28年度
		保健医療学部作業療法学科		4	40	0	160	開設年度 平成28年度

		保健医療学部臨床工学科	4	60	0	240	開設年度 平成 30 年度
		助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成 28 年
	森ノ宮医 療学園専 門学校	医療専門課程 鍼灸学科	3	180	0	540	開設年度昭 和 48 年
		医療専門課程 柔道整復学 科	3	180	0	540	開設年度平 成 12 年

#### 4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	32,936.65	m <sup>2</sup> 7,193.15 (東棟)	平成 28 年度に南 棟 (11,102.79 m <sup>2</sup> ) 完成、平成 28 年 12 月 西側隣接地 (16,941.41 m <sup>2</sup> ) 購 入 平成 30 年 4 月に 新校舎 (673.31 m <sup>2</sup> ) 完成
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		11,102.79 (南棟)	
		673.31 (新校舎)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	24,096.62	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,353.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中 本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,744.60	
大学・専門学校 合計	36,176.83	31,841.22	

## 5. 役員の概要

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

定員数：理事 8～12 名、監事 2 名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	花谷幸比古	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	三木完二	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	森優也	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-3	
理事	中田敬吾	平成 14 年 5 月	7-1-3	
理事	吉川徹	平成 25 年 7 月	7-1-3	
理事	金尾顕郎	平成 27 年 4 月	7-1-3	
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成 11 年 5 月		
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		

## 6. 評議員の概要

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

定員数 17～25 名

氏名	寄附行為上の選任区分
田畑京美	25-1-1
山下 仁	25-1-1
村上生美	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
青木元邦	25-1-1
宮崎義雄	25-1-1
吉岡敏治	25-1-1
三木屋良輔	25-1-1
花谷幸比古	25-1-2
三木完二	25-1-2
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2

清水尚道	25-1-2
尾崎朋文	25-1-2
奥田 功	25-1-3
河内 明	25-1-3
鈴木 紘	25-1-3
下條喜信	25-1-3
築山房乃	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木 信	25-1-3
中田 一	25-1-3
赤丸敏行	25-1-3

## 7. 教職員の概要

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

### ●専門学校・診療所

区分	人数
本務教員	26
本務職員	25
診療所本務職員	17
合計	68

(法人本部所属者含む)

### ●大学

区分	人数
本務教員	111
本務職員	43
合計	154

(法人本部所属者含む)

## 8. その他

### ●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務室	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務室	
7	日本私立大学協会	大	総務室	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務室	
9	西日本私立大学振興協議会	大	経営企画室	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務室	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務室	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務室	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務室	
14	広域大学連携事業	大	教務室	
15	関西地区 FD 連絡協議会	大	経営企画室	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援室	
17	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
18	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
19	公益社団法人 全日本鍼灸学会	共/大関	鍼灸学科	
20	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	理学療法 作業療法 関係
21	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
22	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
23	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	看護関係
24	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	

25	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科 助産学専攻科	
26	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
27	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
28	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
29	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専/大関	柔道整復学科	
30	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
31	日本看護図書館協会	大	図書館	
32	一般社団法人 日本温泉気候物理学医学会	大	図書館	
33	経絡治療学会	大	図書館	
34	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
35	東成防火協力会	専	事務局	
36	中本連合中本第一町会	専	事務局	
37	コスモスクエア地区開発協議会	大	経営企画室	
38	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
39	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
40	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	

## Ⅱ. 事業の概要

### 1. 学園全体

平成 29 年度の主な事業の遂行状況は、以下の通りである。

#### 「学園」

1. 本学園では、年度ごとの事業計画と予算は、前年度 12 月に各部門・各部署で原案を策定し、理事長および理事者によるヒアリングを通じて学園全体のとりまとめを行ったうえで 3 月の理事会で承認を受け、さらに、当年度の 5 月に成果報告会を開催し、理事長や理事者に対して前年度の成果や実績を報告するとともに、当年度計画の修正を行う機会を設けているが、平成 29 年度においてもこれらを継続して実施した。また、平成 29 年度は、第 1 期中期経営計画（平成 26 年度～平成 30 年度）の 4 年目に当たることから、中期計画目標の達成に向けた施策を着実に実行した。
2. 平成 26 年度から人事制度改革に着手しており、森ノ宮医療大学（以下、「大学」と表記）の教職員と森ノ宮医療学園専門学校（以下、「専門学校」と表記）の教職員に対し、目標管理制度の導入を順次進め、平成 28 年度に導入を完了している。平成 29 年度は、新たに職位・職能の定義を刷新し定着を進めるとともに、理事者による人事面談を試行した。今後、制度の問題点抽出と、より実効性・効率性が確保できる制度改変を進めていく予定である。
3. 外部臨床実習施設としても使用可能であり、鍼灸施術と柔道整復施術を行う「京都施術所」（名称：ERP 下鴨南治療院）を 11 月 9 日に開業した。同施術所については、「医療・福祉」を付随事業に追加する寄附行為変更の認可の後、付随事業として開業するに至った。将来的には専門学校の柔道整復学科外部臨床実習施設としても計画予定である。
4. 将来のさらなる少子高齢化を見据え、学園の「建学の精神」や社会貢献の観点から、介護に携わる外国人等の人材育成事業を 2 段階に分けて事業展開することを機関決定し、第 1 段階として、森ノ宮ランゲージスクール（仮称）を平成 31 年度に開校することを計画している。

#### 「大学」

5. 平成 30 年 4 月設置を計画している保健医療学部「臨床工学科」と大学院「保健医療学研究科医療科学専攻博士後期課程」に関して学科および専攻を追加する寄附行為変更の届出を行った。
6. 受動喫煙を防止する為の法律（健康増進法第 25 条）の施行に伴い、4 月 1 日に学生および教職員の禁煙宣言を行った。
7. 学長はじめ役員と大学関係者の有志から桜の木が寄贈され、大学のキャンナルポート（C 棟）と運河間の法面への植樹を行った。
8. 学科増設等に対応した人材供給を確保するため、平成 30 年度に初めて新卒者採用を予定し、学生向け説明会を 5 月に実施した。書類選考から採用面接を経て 4 名の採用を決定し、10 月に内定式を挙行了。
9. 関西鍼灸系大学間連携 4 大学が共同開催する「合同就職説明会」が本学の体育館で開催された。鍼灸・整骨院をはじめ、医療施設や一般企業、大学院・専門学校など約 70 施設を招き、各大学の鍼灸学科や柔道整復学科の学生が参加した。
10. 保健医療学部「臨床工学科」・大学院「保健医療学研究科 医療科学専攻 博士後期課程」に関して、それぞれ平成 29 年 6 月 30 日・平成 29 年 8 月 29 日付けで文部科学省より認可された。入学定員数は「臨床工学科」60 名（収容定員 240 名）、「博士後期課程」2 名である。
11. 平成 29 年 6 月 30 日付けで「看護学科」「理学療法学科」の収容定員増加（看護学科は 90 名・理学療法学科 70 名）について認可された。

12. SD（スタッフ・デベロップメント）の義務化に伴い、平成 29 年度学内研修としてファシリテーション研修を実施した。
13. 平成 32 年度開設を計画している診療放射線学科（仮称）用の校舎について建設計画を策定した。建築会社 5 社からプラン提示を受けた後建設会社を選定し、基本構想・企画設計を 3 月末で終了した。今後は基本設計・実施設計へと進み、着工は平成 31 年 1 月を予定している。
14. キャリア支援セミナーとして、アテネ・北京・ロンドン五輪金メダリスト吉田沙保里選手と栄和人総監督を招き、「負けない自分の作り方～オリンピック金メダルへの挑戦～」をテーマに講演会（教育後援会協賛）を開催した。
15. 株式会社かなえるリンクと保健医療学部が相互連携協定を平成 29 年 10 月 5 日に締結した。学生の実習受け入れや双方の施設有効活用、講義・講演を通じた人材の相互派遣等を連携事業として進めていく予定である。
16. 平成 28 年度に購入した大学西側校地南側土地に、大学の授業や部活動に活用できる運動施設を整備した。人工芝や照明を備えたフットサルコートのほか、ランニングコースや多目的クレーグラウンドなどを整備し、「グリーンスクエア」と命名した。地域の住民や団体（保育園・リハビリ施設等）への貸与についても検討中である。
17. 大阪市西部地域の基幹病院である公益財団法人日本生命済生会日本生命病院との相互連携協定を平成 30 年 1 月 26 日に締結した。臨地実習を中心とした学生教育や医学研究等において協働していく予定である。
18. 平成 30 年 4 月に開設する臨床工学科の学生教育に対応すべく、キャナルポート 3F・5F・6F 各フロアの改修整備に着手し、人工心肺装置や手術室内設備機器機器を配備した実習施設等を増設した。
19. 英語教育特別プログラム「MEEP」の海外短期研修先であるカーティン大学（Curtin University, Perth, Australia）との連携協定を平成 30 年 3 月 26 日に締結した。
20. 関西鍼灸系大学間連携 4 大学主催 FD 研修会を担当校として本学で開催した。
21. 平成 30 年度から稼働予定である国際交流センター・森ノ宮医療学園ランゲージスクールが使用する鉄骨造スレート葺き 2 階建て校舎（673.31 m<sup>2</sup>）建設に着手した。

#### 「専門学校」

22. 昨年度に引き続き、経年劣化による本校舎の空調機器の入れ替え工事を実施するとともに、北館エレベーターのリニューアル工事を実施した。エレベーターをバリアフリータイプに改修した。
23. 平成 30 年度から施行される「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゆう師に係る学校養成施設認定規則」ならびに「柔道整復師学校養成施設指定規則」の一部改正と養成施設指導要領（ガイドライン）の一部改正に対応するため、平成 30 年度入学生からの鍼灸学科ならびに柔道整復学科の教育課程（カリキュラム）を変更する学則変更承認申請を 9 月に行い、12 月に申請の許可が得られた。この新学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
24. 主管校として第 39 回東洋療法学校協会学術大会を大阪国際交流センターにて開催した。
25. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゆう師に係る学校養成施設認定規則」改正に伴い外部臨床実習が認められ、外部臨床実習を受け入れる施術所担当者は臨床実習指導者講習会を受講することが義務付けられたことを受け、東洋療法学校協会主催の臨床実習指導者講習会が専門学校を大阪会場として開催され、運営等のサポートを行った。

## 2. 森ノ宮医療大学

### (1) 実施事業の概要

平成 29 年度目標として、「医療系総合大学としての拡充・認知度向上・ブランディングをさらに進化させ、関西圏の医療職養成大学群内でのプレゼンスを高める。」を掲げ、以下の概要で遂行した。

#### 1) 医療系総合大学へ向けた取り組み

##### ① 新学科設置・定員数増加

平成 28 年度設置の作業療法学科・臨床検査学科・助産学専攻科は、平成 29 年度も平成 28 年度と同様に、募集・教育・運営のいずれも順調に推移した。1 学部 5 学科と 1 研究科 1 専攻科を擁する医療系総合大学としての認知度は確実に上昇しつつあるが、平成 29 年度も学科増設による医療系総合大学としての拡充を継続させるため、平成 30 年 4 月に臨床工学科および大学院博士後期課程の新設を計画し、それぞれ平成 29 年度 6 月と 8 月に認可申請が認められた。平行して、臨床工学科科開設準備として、キャナルポート（南棟）に、人工心肺装置を配備した模擬手術室、人工呼吸器や人工透析機を設置した模擬 ICU 実習室、電子工学用実習室等を増設した。また同棟 5F に博士後期課程の教室を確保した。平成 30 年度の臨床工学科および大学院博士後期課程の募集状況も既存学科同様堅調であり、臨床工学科 72 名（定員 60 名）・博士後期課程 4 名（定員 2 名）が確保された。さらに医療系総合大学として発展を継続させるべく、平成 32 年度に診療放射線学科（仮称）の開設準備に着手した。様々な学科の設置は、本学のコア教育プログラムである実践的チーム医療教育の実施に必須であり、他の医療系学科を擁する競合大学に対する大きなアドバンテージとなる。

また、教育・研究・経営面での定員数順守を踏まえたスケールメリットを考慮し、看護学科および理学療法学科入学定員数をそれぞれ 10 名増員した。これにより、大学総収容定員数は 1,200 名から 1,480 名に増加することとなる。

##### ② 「チーム医療教育を実践する医療系総合大学」としてのブランディング

平成 27 年度より、本学の医療教育の軸を「東西医療の融合」から「チーム医療実践力」へと変革させており、平成 29 年度も継続して「医療系総合大学だからこそ実践できるチーム医療教育」を前面に打ち出し、大学ブランディングの強化を図った。

様々な医療現場のニーズおよび社会的ニーズにマッチした「チーム医療」のコンセプトと、それを可能にする「医療系総合大学」の打ち出しはほぼ定着したと考えられ、医療職志望者にインパクトを与えている。「チーム医療」を本学の魅力・志望動機としている受験生が最多であり、「チーム医療を実践する医療系総合大学」として森ノ宮医療大学の認知度は引き続き向上しており、継続する募集力アップに繋がっていると思われる。

- ・ 年間資料請求者数：25,119 件（H28 年度比：109.2% 23,005 件）
- ・ 年間 WEB サイト訪問者数：467,882 件（H28 年度比：121.5% 385,117 件）
- ・ オープンキャンパス参加者数：4,838 名（H28 年度比：106.6% 5,155 名）
- ・ 出願者数：3,302 名（H28 年度比：101.1% 3,298 名）

また、偏差値の上昇も継続して認められ、主要受験者層の上方シフト・国公立や上位競合校との併願の増加から、認知度・ブランド力は確実に向上していると思われる。

### ③ 専門職間連携教育 IPE (Interprofessional Education) の実施

IPW (Inter Professional Work) (専門職連携) は、複数の専門職が協働しながら患者の疾病治療や様々な要望に応える現代医療のコアとなる形態であり、いわゆる「チーム医療」として展開されている。本学では、他大学と一線を画す実践的かつ高度な医療教育の提供のために、またチーム医療を理解し牽引できる人材輩出による社会・医療界への貢献を目指し、「チーム医療教育」をコア教育プログラムとして前面に打ち出している。専門職間連携教育 IPE (Interprofessional Education) として平成 28 年度から看護・理学療法・鍼灸各学科 3 年生を対象にスタートしたが、平成 29 年度においても共通テーマとする症例の一部見直しや運用方法の一部変更など積極的なアレンジを加えこれを継続した。本カリキュラムでは、設定した症例ごとに各学科学生がチームを構成し、各専門職の知識・スキルを最大限に生かしつつ協働するチームとして、患者へのアプローチ構築を实践させた。医師および各専門職教員の指導のもと、カンファレンス形態で実施し、病院で実際に行われる症例検討会を模擬的に体験させている。本形態授業は、医療人育成プログラムとして全国的にも先駆的なカリキュラムであり、他大学でも取り入れつつあるものの、多学科を擁する医療系総合大学である本学の最大のアドバンテージである。平成 29 年度には、教務委員会・IPE working team において、IPE カリキュラムのさらなるブラッシュアップも実施した。低学年からの積み上げ教育を重視したチーム医療教育関連座学の各学年での配置、および連携病院と協働したチーム医療見学実習 (Early exposure) を実施しており、平成 30 年度に引き続き計画する。

## 2) 学生支援

### ① 質の高い教育水準の確保と提供

学生授業アンケート・公開授業・ループリックによる評価の可視化等を継続して実施することで、教員の学生教育に対する意識の維持・向上を目指した。学生に理解しやすい教育プログラム提供に重点を置き、主体的学修姿勢の醸成にも取り組んだ。また、相互連携協定を締結している大阪急性期総合医療センター、北野病院、医療法人協和会等をはじめ、地域の主たる基幹病院を臨地実習病院として確保しており、高度な臨地実習教育を展開することができた。新学科においても地域の主要基幹病院を実習施設として確保している。鍼灸学科、理学療法学科ではカリキュラムの見直しを行い、授業内容の充実を目的に平成 30 年度開講カリキュラムの変更承認申請を行った。

### ② 医療系国家資格取得に対する支援

医療系総合大学である本学では、在学生全員が医療系国家資格取得を義務付けている。それに対する支援は医療人養成大学として必須と考えており、各学科において、蓄積された経験を踏まえ各学科特性に応じた緻密な国家試験対策プログラムが低学年からシステムティックに構築し実施している。国家試験対策支援は、学科内に留まらず、教授会でも情報を共有しながら全学で取り組んでいる。教授会では、各学科でのプログラム内容や年間スケジュール、さらにリアルタイムでの取り組み状況や模擬試験の結果分析等についての報告を義務づけており、平成 29 年度も継続して実施した。教授会での情報共有は、他学科の手法やアドバイスを学科間で共有できる機会であり、進行年度中でまだ卒業生を輩出していない臨床検査・作業療法各学科の低学年プログラム構築や、学科独自性と合わせた優れた国家試験対策の実施を可能としている。さらに、全体プログラムのみならず、学生個人に対応したきめ細やかな支援を遂行すべく、チューター制度・担任制度を利用した個別指導を全学科に導入・推進した。

これら支援の結果、看護師国家試験合格率・助産師国家試験合格率 100%をはじめ、保健師・理学療法士いずれも全国平均を上回った。はり師・きゆう師に関しては全国

平均を下回り、来年度国家試験対策の見直しが必要である。また、高い国家試験合格率を維持のみならず、4年卒業率の上昇も課題である（本学目標：4年卒業率95%、国家試験合格率100%）。

■看護師

全国	受験者数：64,488名	合格者数：58,682名	合格率：91.0%
全国新卒	受験者数：57,929名	合格者数：55,764名	合格率：96.3%
本学新卒	受験者数：87名	合格者数：87名	合格率：100%

■保健師

全国	受験者数：8,191名	合格者数：6,666名	合格率：81.4%
全国新卒	受験者数：7,675名	合格者数：6,572名	合格率：85.6%
本学新卒	受験者数：10名	合格者数：9名	合格率：90.0%

■助産師

全国	受験者数：2,230名	合格者数：2,201名	合格率：98.7%
全国新卒	受験者数：2,087名	合格者数：2,074名	合格率：99.4%
本学新卒	受験者数：9名	合格者数：9名	合格率：100%

■理学療法士

全国	受験者数：12,148名	合格者数：9,885名	合格率：81.4%
全国新卒	受験者数：11,033名	合格者数：9,679名	合格率：87.7%
本学新卒	受験者数：51名	合格者数：47名	合格率：92.2%

■はり師

全国	受験者数：4,622名	合格者数：2,667名	合格率：57.7%
全国新卒	受験者数：3,275名	合格者数：2,440名	合格率：74.5%
本学新卒	受験者数：47名	合格者数：26名	合格率：55.3%

■きゅう師

全国	受験者数：4,555名	合格者数：2,845名	合格率：62.5%
全国新卒	受験者数：3,275名	合格者数：2,587名	合格率：79.0%
本学新卒	受験者数：47名	合格者数：31名	合格率：66.0%

③ 学習支援センター

学習支援センターによる低学年教育の充実および国家試験対策を継続した。リメディアル教育・一般常識教育・基礎医学教育・国家試験対策支援の連続性を重視し、低学年からの学習支援に取り組んだ。低学年におけるリメディアル教育・医療専門職の基盤となる基礎医学教育（解剖学・生理学）に関し、学科特性に呼応した補講体制を、学習支援センターを核として学科・共通教育部門が緊密に連携しながら構築した。また鍼灸学科国家試験対策支援としてセンターアシスタント制度を継続して実施し、学生への支援を充実した結果、満足度向上にも寄与した。理学療法学科および看護学科では、学科と連携し、東京アカデミー等からの講師派遣による支援を実施した。

ステップアップ講座：

- ・ 看護のための解剖生理学セミナー  
（講師：看護学科 木田）全5回（参加者総数：127名）
- ・ 看護学生のための化学と生物  
（講師：看護学科 木田）全5回（参加者総数：94名）
- ・ 基礎からわかる物理学  
（講師：理学療法学科 角田）全4回（参加者総数：82名）
- ・ 理学療法士のための解剖学セミナー

- (講師：理学療法学科 工藤) 全7回 (参加者総数：85名)
- ・ 理学療法士のための生理学セミナー  
(講師：理学療法学科 前田) 全7回 (参加者総数：73名)
- ・ 理学療法士のための運動学(実技)  
(講師：理学療法学科 前田) 全2回 (参加者総数：63名)
- ・ 理学療法士/作業療法士のための基礎知識  
(講師：共通教育 森谷) 全5回 (参加者数：48名)
- ・ 作業療法士のための物理学  
(講師：作業療法学科 松下) 全9回 (参加者総数：207名)

#### ④ 健康管理センター

学生数の増加に伴い健康管理体制のさらなる充実に取り組んだ。特に感染症予防対策・メンタルヘルスケアを拡充し、小児感染症ワクチン接種フロー等健康管理業務を効率的に一元化した。

##### 健康増進関連事項：

- ・ 平成29年4月の禁煙宣言に向けた取り組み遂行(敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導と禁煙サポート・平成30年度からは入学生に誓約書義務付け)
- ・ 血圧計の増設

##### 健康管理関連事項：

- ・ 効率的な健康診断実施のための検査項目見直し
- ・ 学内感染症予防対策の実施(感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、感染症発症者の抽出・確認・帰宅フローの構築(教務室と連動)・学生相談受付)
- ・ 医務室移転に伴う医務室業務の充実
- ・ みどりの風クリニックとの連携フロー策定
- ・ 外部のカウンセリングシステム(T-PEC)導入による医療サービスの拡充
- ・ Will申請業務の速やかな実施

##### 臨地実習関連事項：

- ・ 臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・ 感染症予防対策に関する全学ルール統一(日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール)と、それに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成

##### メンタルヘルスケア：

- ・ 臨床心理士の新規配置によるカウンセリングの実施
- ・ 外部のカウンセリングシステム(T-PEC)導入による匿名相談窓口の拡充
- ・ 休学者支援

### ⑤ 就職ガイダンスの強化

学生支援室による就職説明会の実施、チューター制度・担任制度による個々の学生へのきめ細やかな就職支援により、高い就職率を達成した。平成 29 年度卒業生の進路希望者に対する進路決定率は 100%であった。

- ・ 看護学科：大学病院、国公立病院、大規模病院を中心に就職実績を残した。
- ・ 理学療法学科：国公立病院、大規模病院を中心に就職実績を残した。
- ・ 鍼灸学科：OB/OG の所属する鍼灸院等へ主に就職。また一部の学生は大阪府教員講師採用、民間企業等へ就職した。

### ⑥ 共通教育センター

基礎医学教育・教養科目のさらなる充実を目指した。

- ・ 臨床工学科開設に伴い、カリキュラム編成、科目担当者の調整などを行った。
- ・ 鍼灸学科、理学療法学科のカリキュラム変更に関し、共通教育科目について協議、調整を行った。

### ⑦ 卒後教育センター

大学ブランド力構築のためには、卒前教育のみならず卒後教育の充実が重要と認識している。平成 27 年度から、継続教育支援プログラムを展開する卒後教育センターを設置しており、平成 29 年度は下記事業を実施した。特に森ノ宮医療大学学術大会では、本学の専門職教員に加え、大阪急性期総合医療センターの医師・看護師、相愛大学栄養学科教授等、外部講師を招き、充実したプログラムが展開された。

- ・ 第 2 回森ノ宮医療大学学術大会：テーマ「チームで支える緩和医療」を開催
- ・ 看護のための卒後教育セミナー：第 1 回を開催
- ・ 基礎医学セミナー：徳島大学歯学部顎顔面口腔形態学分野の協力により、解剖標本見学実習を開催
- ・ 卒業生のための研究支援セミナー：理学療法学科卒業生に対し開催、近畿理学療法学会にて卒業生による 6 演題の発表
- ・ 森ノ宮適塾：月に 1 回開催した。そのうち 1 名は大学院進学となった。

森ノ宮適塾研修会：神経系と運動器系について実施

## 3) 研究支援体制の充実と研究推進

### ① 「研究支援センター」の設置

平成 29 年度より新たに「研究支援センター」（センター長：青木）を設置し、研究支援体制の充実に取り組み、さらなる研究推進・研究業績の発信を目指した。社会的責務を有する研究機関として、文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」ならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究体制の構築を平成 28 年度から継続して実施した。また、CITI Japan e-learning システムを利用した研究不正の防止、および研究費コンプライアンス研修会による研究費不正の防止を目指し、全学的に研究倫理教育を行った。競争的外部資金確保を支援するとともに、研究実態に応じた内部研究費の適正な配分を実施し、効率的な研究推進・研究活動支援を行った。さらに、本学紀要について、これまでの紙媒体による発行から電子媒体による発行へと移行し、web 上で公表することによって、本学の優れた研究を広く社会に公表した。また、本学の研究活動の促進や研究発表論文投稿の奨励を目的として、学長賞（優秀論文賞）を設置し、優秀論文発表者の表彰を行った。

② 競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業-科研費-）

<新規>

- ・ 基盤研究 (C) 前田 薫「事象関連脳電位を指標とした脳卒中患者の立位における予測的姿勢制御能評価基準の構築」
- ・ 基盤研究 (C) 森 誠司「癌の浸潤転移におけるFGF受容体とインテグリンのクロスシグナリング」
- ・ 基盤研究 (C) 山下 仁「代替医療の臨床研究論文の質：システマティック・レビュー変法による評価」
- ・ 基盤研究 (C) 伊津美 孝子「医療ビッグデータ時代における看護の「見える化」推進eラーニングシステムの開発」
- ・ 若手研究(B) 下村 咲喜「女性の腹圧性尿失禁に対する骨盤底筋エクササイズの研究」
- ・ 若手研究(B) 上田 真也「<sup>13</sup>C-グルコースを用いた小動物による運動時糖代謝調節機構の解明」
- ・ 若手研究(B) 関口 敏彰「地域在住高齢者の健康寿命延伸に資する腎機能保持を考慮した栄養摂取量の検討」

<継続>

- ・ 基盤研究 (B) 宮本 忠吉「システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明」
- ・ 基盤研究 (C) 前田 薫「立位位置が上肢運動時の予測的姿勢制御および注意・予測に関わる脳電位におよぼす影響」
- ・ 基盤研究 (C) 中原 英博「呼吸循環代謝システムの長期トレーニング適応における順序発現機構の解明」
- ・ 基盤研究 (C) 酒井 ひろ子「能動喫煙・受動喫煙の累積喫煙量がもたらす卵巣予備能低下と生活習慣病リスクの評価」
- ・ 基盤研究 (C) 吉村 弥須子「生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究」
- ・ 基盤研究 (C) 吉田 えり「看護師のストレス反応を低減させる職場環境改善プログラムの確立」
- ・ 基盤研究 (C) 緒方 昭子「腹腔鏡下手術後患者に対するソフトマッサー効果の比較ランダム化試験」
- ・ 若手研究 (B) 工藤 慎太郎「扁平足の三次元足部挙動に基づく足底挿板の開発」
- ・ 若手研究 (B) 木内 隆裕「上肢筋力の Cross-education に関わる神経基盤の解明」
- ・ 挑戦的萌芽研究 宮本 忠吉「高位中枢の予測見込み的制御が激運動時の呼吸循環動態および神経内分泌機能に及ぼす影響」

③ 研究成果の発信

活発な研究活動が行われ、下記査読付き学術論文が発信された。

- ・ Kudo, S, Nakamura S. Relationship between hardness and deformation of the vastus lateralis muscle during knee flexion using ultrasound imaging. J Bodyw Mov Ther. 2017; 21(3): 549-553.
- ・ Miyamoto T, Manabe K, Ueda S, Nakahara H. Development of an anesthetized rat model of exercise hyperpnoea: An integrative model of respiratory control using an equilibrium diagram. Exp Physiol. in press.

- Ueda SY, Nakahara H, Kawai E, Usui T, Tsuji S, Miyamoto T. Effects of walking in water on gut hormone concentrations and appetite: comparison with walking on land. *Endocr Connect.* 2018; 7(1): 97-106.
- Kawada T, Shimizu S, Yamamoto H, Miyamoto T, Shishido T, Sugimachi M. Peripheral versus central effect of intravenous moxonidine on rat carotid sinus baroreflex-mediated sympathetic arterial pressure regulation. *Life Sci.* 2017; 190: 103-109.
- Ogoh S, Nakata H, Miyamoto T, Bailey DM, Shibasaki M. Dynamic cerebral autoregulation during cognitive task: Effect of hypoxia. *J Appl Physiol (1985).* 2018; Feb 8. doi: 10.1152/jappphysiol.00909.2017. [Epub ahead of print]
- Yamamoto H, Kawada T, Shimizu S, Uemura K, Inagakib M, Fukuda K, Miyamoto T, Miyazaki S, Sugimachi M. *International Journal of Cardiology.* 2018; 257: 255-261.
- Nakata H, Miyamoto T, Ogoh S, Kakigi R, Shibasaki M. Effects of acute hypoxia on human cognitive processing: A study using ERPs and SEPs. *J Appl Physiol.* 2017; 20: jap.00348.2017.
- Saku K, Tohyama T, Shinoda M, Kishi T, Hosokawa K, Nishikawa T, Oga Y, Sakamoto T, Tsutsui H, Miyamoto T, Sunagawa K. Central Chemoreflex activation induces sympatho-excitation without altering static or dynamic baroreflex function in normal rats. *Physiol Rep.* 2017; 5(17): e13406.
- Kawada T, Shimizu S, Yamamoto H, Miyamoto T, Shishido T, Sugimachi M. Peripheral versus central effect of intravenous moxonidine on rat carotid sinus baroreflex-mediated sympathetic arterial pressure regulation. *Life Sci.* 2017; 27: S0024-3205(17)30488-5.
- Kawada T, Shimizu S, Yamamoto H, Miyamoto T, Kamiya A, Shishido T, Sugimachi M. Effects of different input pressure waveforms on the carotid sinus baroreflex-mediated sympathetic arterial pressure response in rats. *J Appl Physiol.* 2017; 27: jap.00354.2017.
- Sumida K, Ando Y, Seki S, Yamashita K, Fujimura A, Baba O, Kitamura S. Anatomical status of the human palatopharyngeal sphincter and its functional implications. *Surg Radiol Anat.* 2017;39:1191-1201.
- Kitamura S. Anatomy of the fasciae and fascial spaces of the maxillofacial and the anterior neck regions. *Anat Sci Int.* 2018; 93(1): 1-13.
- Kukimoto K, Ooe N, Ideguchi N. The Effects of Massage Therapy on Pain and Anxiety after Surgery : A Systematic Review and Meta-Analysis. *Pain Management Nursing.* 2017; 18(6): 378-390.
- Matsushita F, Kida H, Tabei K, Nakano C, Matsuura K, Ii Y, Sasaki R, Taniguchi A, Narita Y, Maeda M, Satoh M, Tomimoto H. Clinical significance of cortical lesions in patients with multiple sclerosis: A neuropsychological and neuroimaging study. *Brain Behav.* 2018; 8(3): e00934.
- Hasan AU, Ohmori K, Hashimoto T, Kamitori K, Yamaguchi F, Konishi K, Noma T, Igarashi J, Yamashita T, Hirano K, Tokuda M, Minamino T, Nishiyama A, Kohno M. Increase in tumor suppressor Arf compensates gene dysregulation in in vitro aged adipocytes. *Biogerontology.* 2017; 18(1): 55-68.
- Sakakibara N, Igarashi J, Takata M, Konishi R, Kato Y, Tsukamoto I. Synthesis and evaluation of novel cyclopropane nucleoside as potential tube formation agents. *Chem Pharm Bull (Tokyo).* 2017; 65(5): 504-510.
- Hasan AU, Ohmori K, Hashimoto T, Kamitori K, Yamaguchi F, Noma T, Igarashi J, Tsuboi K, Tokuda M, Nishiyama A, Kohno M. GPR120 in adipocytes has differential roles in the production of pro-inflammatory adipocytokines. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017; 486(1): 76-82.

- Furuse N, Shinbara H, Uehara A, Sugawara M, Yamazaki T, Hosaka M, Yamashita H. A multicenter prospective survey of adverse events associated with acupuncture and moxibustion in Japan. *Med Acupunct*. 2017; 29(3): 155-162.
- Masuyama S, Yamashita H. Policies and guidelines on research ethics and conflict of interest in domestic journals of complementary and alternative medicine: an example in Japan. *J Complement Med Altern Healthcare*. 2017; 4(2) DOI: 10.19080/JCMAH.2017.04.555631.
- Nakagawa M, Naruko T, Sugioka K, Kitabayashi C, Shirai N, Takagi M, Yoshiyama M, Ohsawa M, Ueda M. Enhanced expression of natriuretic peptide receptor A and B in neutrophils of culprit lesions in patients with acute myocardial infarction. *Mol Med Rep*. 2017; 16: 3324-3330.
- Minami K, Hamada Y, Kawaguchi N, Mori S, Yokoyama Y, Oki Y, Adachi T, Kondo R, Shishido A, Matsushita Y, Usuki T, Manabe M, Koizumi M, Ogawa K, and Yamamoto H. X-ray and Carbon Ion Beam Irradiation Inhibited Angiogenesis via Integrin Up-regulation. *Nano Biomed* 2017; 9(2): 94-104.
- Uchinaka A, Kawaguchi N, Ban T, Hamada Y, Mori S, Maeno Y, Sawa Y, Nagata K, Yamamoto H. Evaluation of dermal wound healing activity of synthetic peptide. SVVYGLR. *Biochem Biophys Res Commun*. 2017; 491(3):714-720.
- Tsubouchi K, Minami K, Hayashi N, Yokoyama Y, Mori S, Yamamoto H, Koizumi M. The CD44 standard isoform contributes to radioresistance of pancreatic cancer cells. *Journal of Radiation Research*. 2017; 58(6): 816-826.
- Minami K, Hamada Y, Kawaguchi N, Mori S, Manabe M, Nakatani K, Tsubouchi K, Hayashi N, Yamamoto H, Koizumi M. The changes in metastatic potential of radioresistant cancer cell line generated by frequent X-ray. *OHEM*. 2017; E001.
- Ohtsuki T, Nabeta T, Nakanishi H, Kawahata H, Morishita R, Aoki M. Electric Field Exposure Improves Subjective Symptoms Related to Sleeplessness in College Students: A Pilot Study of Electric Field Therapy for Sleep Disorder. *Immunology, Endocrine & Metabolic Agents in Medicinal Chemistry. Immun., Endoc. & Metab. Agents in Med. Chem*. 2017; 17: 37-48.
- Urushima H, Fujimoto M, Mishima T, Ohkawara T, Honda H, Lee H, Kawahata H, Serada S, Naka T. Leucine-rich alpha 2 glycoprotein promotes Th17 differentiation and collagen-induced arthritis in mice through enhancement of TGF- $\beta$ -Smad2 signaling in naïve helper T cells. *Arthritis Res Ther*. 2017; 19(1): 137.

#### 和文

- 住田陽子, 伊津美孝子, 村上生美. 「外来看護論」の履修における看護学生の学び. 森ノ宮医療大学紀要. 2018; 12: 35-45.
- 福島信也. 「総合的な学習の時間」とリンクする「道徳の授業」に向けて—高齢者に関わる社会問題(認知症など)の教材から—. 森ノ宮医療大学紀要. 2018; 12: 69-84.
- 吉川有葵, 内田潤次, 吉村弥須子, 前田景子. 腎移植レシピエントの妊娠・出産の経験と看護支援の検討. *移植*. 2017; 52(6): 517-524.
- 横井賀津志, 藤井有里, 酒井ひとみ. 認知症予防事業における挑戦したい作業に焦点をあてたアプローチの効果: パイロット研究. *作業科学研究*. 2017; 11(1): 39-50.
- 松山厚樹, 明崎禎輝, 横井賀津志. 肩関節周囲炎患者に対する運動療法を併用した電気刺激療法の効果. *保健医療学雑誌*. 2017; 8(1): 38-43.
- 佐々木梢, 木野田利枝, 松下太. 作業療法士の感染対策意識と今後の課題—アンケートを通して—. *INFECTION CONTROL*. 2018; 27(2): 182-186.

- ・ 小林貴代, 政吉貞夫, 伊津野徹, 酒匂泰智, 高延政之. 脳の活動と心をかさねて観るコミュニケーション支援の可能性について. 森ノ宮医療大学紀要. 2018; 3(12): 57-67.
- ・ 吉岡敏治. 化学テロ対策の現状と課題; 化学テロから人命を守るために. 自治体危機管理研究. 2017; 19: 49-65.
- ・ 波多野弥生, 遠藤容子, 三瀬雅史, 今田優子, 高野博徳, 黒木由美子, 水谷太郎, 吉岡敏治. 家庭用品の安全対策 洗濯用パック型液体洗剤による健康被害状況とその安全対策. 中毒研究. 2017; 30(1): 46-53.
- ・ 三瀬雅史, 今別府文昭, 波多野弥生, 遠藤容子, 黒木由美子, 水谷太郎, 吉岡敏治. 虫よけ剤およびワンプッシュ式殺虫剤による中毒事故. 中毒研究. 2017; 30(1): 56-61.
- ・ 山中大輔, 竹内明子, 三瀬雅史, 高野博徳, 波多野弥生, 遠藤容子, 水谷太郎, 吉岡敏治. 小児による医薬品誤飲の発生状況と受診の基準等の検討ーロキソプロフェンナトリウム製剤およびエチゾラム製剤ー. 中毒研究. 2017; 30(4): 409-414.
- ・ 内野容子, 古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療と肝炎感染の関連についての文献レビューにおけるハンドサーチの重要性ーシステムティック・レビューの変法による検証ー. 全日本鍼灸学会雑誌. 2017; 67(3): 201-214.
- ・ 外林大輔, 伊黒浩二, 川畑浩久. ラット靭帯修復過程に低出力超音波パルス (Low Intensity Pulsed Ultrasound) が与える影響. 日本柔道整復接骨医学会誌. 2017. 第 25 巻 3 号:104-110.
- ・ 大掛馨太, 生田真一, 相原司, 覚野綾子, 脇英彦, 松林謙治, 中島隆善, 山中若樹. Bipolar 型ラジオ波焼灼療法に経皮エタノール注入療法を併用する場合の問題点と対策. 肝臓. 2017; 58(9): 478-485.
- ・ 脇英彦, 小宮山恭弘, 前川佳敬, 上田真喜子. 高齢者の胸痛鑑別について. 森ノ宮医療大学紀要. 2017; 11: 41-48.
- ・ 脇英彦, 上田真喜子, 伊東宏祐, 中島隆善, 生田真一, 相原司, 岸清彦, 山中若樹. 肝切除に超音波ドプラ法が有用であった肝静脈走行異常を伴う肝内結石症. Jpn J Med Ultrasonics. 2017; 44(2): 389-394.
- ・ 濱島一樹, 工藤慎太郎, 船橋益夫, 加藤桂介, 矢口敏章, 佐藤祐造. 2 型糖尿病患者における足部に関連する QOL に関する検討. 日本体質医学会雑誌. In press
- ・ 櫻井良輔, 工藤慎太郎, 小林久文, 青山倫久, 林英俊, 平田正純. 超音波装置を用いた野球選手の肘内側障害における前腕屈筋群の筋評価. 日本整形外科超音波学雑誌. in press
- ・ 小林久文, 工藤慎太郎, 青山倫久, 林英俊, 平田正純. 腰部多裂筋の筋厚測定における曲線型および直線型プローブの比較. 日本整形外科超音波学会誌. in press
- ・ 青柳努, 工藤慎太郎, 小林久文, 青山倫久, 林英俊, 平田正純. 超音波診断装置を用いた距骨下関節回外可動性評価の再現性の検討. 日本整形外科超音波学会誌. in press
- ・ 堀川奈央, 大月隆史, 鍋田智之. 不眠に与える灸セルフケアの影響. 森ノ宮医療大学紀要. 2017Mar ; 11 : 87-94
- ・ 奥村幸希子, 松熊秀明. 僧帽筋上の鍼刺激部位の違いが肩部循環に与える影響. 全日本鍼灸学会雑誌. 2018; 68(1): 42-49.
- ・ 大月隆史, 高崎雷太, 松熊秀明, 鍋田智之. 森ノ宮医療大学鍼灸学科学生の社会的スキルに与える要因. 森ノ宮医療大学紀要. 2018; 12: 47-55.
- ・ 内野容子, 古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療と肝炎感染の関連についての文献レビューにおけるハンドサーチの重要性ーシステムティック・レビューの変法による検証ー. 全日本鍼灸学会雑誌. 2017; 67(3): 201-214.
- ・ 辻涼太, 久下浩史, 森英俊他, 下肢のむくみ尺度に対する順序尺度の相違による信頼性. Quality of Life Journal. 2017; 18 巻 1 号: 26-35.
- ・ 西崎晶子, 朔啓太, 遠山岳詩, 吉田賢明, 西川拓也, 筒井裕之, 宮本忠吉, 砂川賢二. 時系列パラメトリック法を用いた人における呼吸化学受容器反射機能の同定. 心臓リハ

ビリテーション. 2017; 23(1): 62-68.

4) 平成 29 年度連携協定

- ①平成 29 年 10 月 5 日 株式会社かなえるリンク 相互連携
- ②平成 30 年 1 月 26 日 公益財団法人日本生命済生会日本生命病院 相互連携
- ③平成 30 年 3 月 26 日 カーティン大学 (Perth, Australia) 連携協定

5) 社会貢献事業：平成 29 年度実施の公開講座

市民公開講座（大阪急性期総合医療センターとの連携事業）

- ・平成 29 年 6 月 18 日（日）第 1 回「心不全」  
基調講演「心不全—診断と治療～最近の進歩～」  
講演Ⅰ「心臓病と看護」  
講演Ⅱ「心臓リハビリテーション」  
講演Ⅲ「心臓病と検査」
- ・平成 29 年 9 月 17 日（日）第 2 回「子宮がん・卵巣がん」  
基調講演「子宮がん・卵巣がん 診断と治療～最近の進歩～」  
講演Ⅰ「婦人科疾患と看護」  
講演Ⅱ「がんのリハビリテーション」  
講演Ⅲ「がんの診断と検査」
- ・平成 29 年 10 月 29 日（日）第 3 回「高齢者の耳鼻科疾患」  
基調講演「高齢者の耳鼻科疾患～最近の進歩～」  
講演Ⅰ「在宅における高齢者の聴覚障害と看護」  
講演Ⅱ「難聴・眩暈の鍼灸治療とツボ療法」  
講演Ⅲ「聴覚障害への支援」

6) 大学院保健医療学研究科保健医療学専攻

①研究指導および学位授与

特別研究（いわゆる修士論文）の指導を行い、5 名の修了者に修士（保健医療学）の学位を授与した。

②博士後期課程設置認可申請

大学企画室および教務室との協働により文部科学省へ保健医療学研究科医療科学専攻博士後期課程の設置認可申請書類を提出し、平成 29 年 8 月に文部科学省より設置が認められた。以後、入学試験を実施し 4 名の学生が合格した。

③学術セミナーの開催

各学科および研究科で分担していただき毎月（計 12 回）、大学院学術セミナーを開催した。講師は本学教員 10 名、外部招聘 2 名が担当した。

7) 人権問題啓発活動（人権問題委員会主管）

- ・平成 29 年 5 月 26 日 ハラスメントアンケートの実施
- ・平成 29 年 11 月 16 日 ハラスメントアンケートの結果を報告・周知
- ・平成 29 年 11 月 27 日 ハラスメントの自己点検チェック表のお願い
- ・平成 30 年 3 月 8 日 人権問題員会研修会の実施  
講師：森ノ宮医療大学 広報室 福島信也先生  
研修会テーマ：「セクシュアルハラスメントに関すること」

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
鍼灸学科	1年生	64	67	67	70
	2年生	67	63	64	64
	3年生	59	64	61	61
	4年生	56	60	68	75
	計	246	254	260	270
定員		240	240	240	240
定員充足率		102.5%	105.8%	108.3%	112.5%
退学者数		7	7	11	-
退学率		2.8%	2.8%	4.2%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
理学療法学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	65	70	70	70
	3年生	64	62	69	70
	4年生	70	69	71	77
	計	269	271	280	287
定員		240	240	240	250
定員充足率		112.1%	112.9%	116.7%	114.8%
退学者数		9	9	7	-
退学率		3.3%	3.3%	2.5%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
看護学科	1年生	90	90	90	90
	2年生	88	89	87	90
	3年生	82	86	87	86
	4年生	98	96	91	89
	計	358	361	355	355
定員		320	320	320	320
定員充足率		111.9%	112.8%	110.9%	107.6%
退学者数		6	7	3	-
退学率		1.7%	1.9%	0.8%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
臨床検査学科	1年生		72	72	72
	2年生			72	72
	3年生				72
	4年生				
	計		72	144	216
定員			60	120	180
定員充足率			120.0%	120.0%	120.0%
退学者数			0	0	-
退学率			0.0%	0.0%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
作業療法学科	1年生		50	50	53
	2年生			47	49
	3年生				42
	4年生				
	計		50	97	144
定員			40	80	120
定員充足率			125.0%	121.3%	120.0%
退学者数			3	6	-
退学率			6.0%	6.2%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
臨床工学科	1年生				70
	2年生				
	3年生				
	4年生				
	計				70
定員					60
定員充足率					116.7%
退学者数					-
退学率					-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
学部計	1年生	224	349	349	425
	2年生	220	222	340	345
	3年生	205	212	217	331
	4年生	224	225	230	241
	計	873	1008	1136	1342
定員		800	900	1000	1180
定員充足率		109.1%	112.0%	113.6%	113.7%
退学者数		22	27	27	-
退学率		2.5%	2.7%	2.4%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
大学院 修士課程	1年生	5	5	4	7
	2年生	7	5	5	4
	計	12	10	9	11
定員		12	12	12	12
定員充足率		125.0%	100.0%	83.3%	75.0%
退学者数		0	0	0	-
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
大学院 博士後期課程	1年生				4
	2年生				
	3年生				
	計				4
定員					2
定員充足率					200%
退学者数					-
退学率					-

学生数		H27.5.1	H28.5.1	H29.5.1	H30.5.1
助産学専攻科	1年生		10	10	10
	計		10	10	10
定員			10	10	10
定員充足率			100.0%	100.0%	100.0%
退学者数			1	2	-
退学率			10.0%	20.0%	-

②平成30年度入学試験受験者数

H30年度 看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	87	3	90	87	3	90	7	0	7
公募推薦 前期	360	12	372	359	12	371	38	0	38
公募推薦 後期	200	6	206	194	6	200	11	0	11
一般 前期A 日程 3科目	116	5	121	107	5	112	22	0	22
一般 前期A 日程 2科目	194	1	195	180	0	180	26	0	26
一般 前期B 日程 3科目	60	5	65	59	5	64	10	0	10
一般 前期B 日程 2科目	102	1	103	99	1	100	12	0	12
一般 中期	146	2	148	134	2	136	16	0	16
一般 後期	84	1	85	82	1	83	8	0	8
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	1	0	0	1	0	0	0	0	0
指定校推薦	7	0	7	7	0	7	7	0	7
計	1357	36	1393	1309	35	1344	157	0	157

H30年度 理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	56	15	71	55	15	70	7	0	7
公募推薦 前期	149	29	178	148	29	177	26	0	26
公募推薦 後期	77	23	100	77	23	100	10	0	10
一般 前期A 日程 3科目	34	18	52	34	18	52	10	0	10
一般 前期A 日程 2科目	66	15	81	64	14	78	16	0	16
一般 前期B 日程 3科目	26	7	33	24	7	31	4	0	4
一般 前期B 日程 2科目	58	10	68	55	10	65	11	0	11
一般 中期	51	28	79	48	25	73	5	0	5
一般 後期	29	12	41	29	12	41	2	0	2

社会人Ⅰ期	1	0	1	1	0	1	1	0	1
社会人Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	8	0	8	8	0	8	8	0	8
<b>計</b>	555	157	712	543	153	696	100	0	100

H30年度 作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	27	14	41	27	14	41	23	4	27
公募推薦 前期	23	49	72	22	49	71	11	0	11
公募推薦 後期	9	27	36	9	26	35	2	0	2
一般 前期A日程 3科目	9	19	28	9	19	28	4	0	4
一般 前期A日程 2科目	11	11	22	11	9	20	5	0	5
一般 前期B日程 3科目	7	10	17	7	10	17	2	0	2
一般 前期B日程 2科目	10	17	27	10	17	27	2	0	2
一般 中期	6	26	32	6	25	31	1	0	1
一般 後期	5	13	18	5	13	18	5	0	5
社会人Ⅰ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	12	0	12	12	0	12	12	0	12
<b>計</b>	119	186	305	118	182	300	67	4	71

H30年度 臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	41	6	47	41	6	47	8	0	8
公募推薦 前期	100	22	122	100	22	122	24	0	24
公募推薦 後期	67	16	83	65	15	80	17	0	17
一般 前期A日程 3科目	32	11	43	32	10	42	18	0	18
一般 前期A日程 2科目	57	7	64	57	7	64	24	0	24
一般 前期B日程 3科目	16	6	22	16	6	22	8	0	8
一般 前期B日程 2科目	31	5	36	31	5	36	13	0	13
一般 中期	34	15	49	33	13	46	10	0	10
一般 後期	19	3	22	19	3	22	5	0	5
社会人Ⅰ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	2	0	2	2	0	2	2	0	2
<b>計</b>	399	91	490	396	87	483	129	0	129

H30年度 鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AOⅠ期	20	10	30	20	10	30	19	5	24
スポーツAO	8	0	8	8	0	8	8	0	8
公募推薦 前期	9	21	30	9	20	29	6	13	19
公募推薦 後期	3	8	11	3	8	11	2	6	8
一般 前期A日程 3科目	3	5	8	3	5	8	3	3	6
一般 前期A日程 2科目	4	4	8	4	4	8	4	3	7
一般 前期B日程 3科目	1	4	5	1	4	5	1	3	4
一般 前期B日程 2科目	4	4	8	4	4	8	4	2	6
一般 中期	2	11	13	1	10	11	1	2	3
一般 後期	2	14	16	2	14	16	2	6	8
社会人Ⅰ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0

社会人Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	15	0	15	15	0	15	15	0	15
計	71	81	152	70	79	149	65	43	108

H30年度 臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	20	10	30	20	10	30	15	6	21
公募推薦 前期	30	35	65	29	35	64	25	16	41
公募推薦 後期	10	24	34	9	24	33	8	7	15
一般 前期A日程 3科目	13	8	21	13	7	20	6	0	6
一般 前期A日程 2科目	16	11	27	16	11	27	5	0	5
一般 前期B日程 3科目	7	5	12	7	5	12	2	0	2
一般 前期B日程 2科目	10	5	15	10	5	15	3	0	3
一般 中期	9	21	30	9	21	30	2	0	2
一般 後期	6	11	17	5	11	16	5	0	5
社会人Ⅰ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人Ⅱ期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
計	399	121	252	118	130	248	71	29	100

③平成30年度 大学院入学試験受験者数

H30年度 大学院研究科 保健医療学専攻	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	4	4	4	3
第2次募集	4	4	3	3
第3次募集	1	1	1	1
計	9	9	8	7

H30年度 大学院研究科 医療科学専攻	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	3	3	3	3
第2次募集	1	1	1	1
計	4	4	4	4

④平成30年度 助産学専攻科入学試験受験者数

H30年度 助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	11	11	10	4
推薦入試	0	0	0	0
学内推薦入試	2	2	2	2
一般入試Ⅱ	4	4	4	4
計	17	17	16	10

⑤国家試験合格率

はり師・きゅう師 国家試験

区 分		平成29年度(第26回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者	はり師	47	26	55.3%
	きゅう師	47	31	66.0%
本学のべ受験者	はり師	61	28	45.9%
	きゅう師	60	33	55.0%
全国平均	はり師	4,622	2,667	57.7%
	きゅう師	4,555	2,845	62.5%

理学療法士 国家試験

区 分		平成29年度(第53回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		51	47	92.2%
本学のべ受験者数		58	49	84.5%
全国平均		12,148	9,885	81.4%

看護師 国家試験

区 分		平成29年度(第107回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		87	87	100%
本学のべ受験者数		93	93	100%
全国平均(新卒者)		64,488	58,682	91.0%

保健師 国家試験

区 分		平成29年度(第104回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		10	9	90.0%
全国平均(新卒者)		8,191	6,666	81.4%

助産師 国家試験

区 分		平成29年度(第101回)		
		受験者	合格者	合格率
新卒受験者		8	8	100%
全国平均(新卒者)		2,230	2,201	98.7%

## ⑥職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。はり師、きゅう師・理学療法士・看護師・保健師に加えて、助産師・作業療法士・臨床検査技師などの求人や、柔道整復師などのその他の医療従事者、大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

職種	件数
理学療法士	706
看護師	450
はり師・きゅう師	347
作業療法士	544
助産師	92
保健師	75
臨床検査技師	104
臨床工学技士	36
診療放射線技師	28
その他の医療従事者	516
事務職	1,429
営業職	2,183
福祉関係(介護職)	710
その他	4,396
教員	122
総計	11,738

### <有効求人倍率について>

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 平成29年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均1.78倍（リクルートワークス社調べ）

	鍼灸学科	理学療法学科	看護学科
求人件数(件)	347	706	525
求職者数(人数)	49	56	87
求人倍率(倍)	7.08	12.6	6.03

### 3. 森ノ宮医療学園専門学校

#### (1) 実施事業の概要

学園の第1期中期経営計画の到達目標は「関西圏の医療系専門学校の中でトップクラスになる」を掲げ、「私たちは、伝統医学を継承し技を極め、心ある臨床家を育てます」を専門学校のミッションに定めている。これらを達成するため、平成29年度については、以下の主要事業を展開した。

#### 1) 教育事業の概要

##### ①カリキュラムの改定

平成29年度から施行された「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゆう師に係る学校養成施設認定規則」ならびに「柔道整復師学校養成施設指定規則」の一部改正と養成施設指導要領（ガイドライン）の一部改定に対応するため、平成30年度入学生からの鍼灸学科ならびに柔道整復学科の教育課程（カリキュラム）について改定を行った。

これらの改定により、平成29年度入学生までのカリキュラムから大幅に単位数および時間数が増加することから、授業開講期間や時間割の編成や運営方法についても検討を行い、学則の対応条項の改定も行っている。

##### ②在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

###### 【鍼灸学科】

- ・入学予定者に事前に配布している入学前ドリルについて、入学後に確認テストを実施した。
- ・平成28年度に引き続き学習関連ゼミを開講。3年生の参加者が増え、成績の向上がみられたものもいた。
- ・鍼灸治療を受診したことの無い学生が増加していることから、複数の治療院と提携して鍼灸の受領体験を行えるようにしている。受療率は5%で例年通りであった。
- ・新入生に入学直後に本校のことをよりよく知ってもらうために、校長によるオリエンテーションを行った。学校の沿革などを学生に伝えることができた。
- ・森ノ宮鍼灸セミナー「臨活」を今年度も6回実施した。1回あたり平均32.3人が参加し、前年度より増加がみられた。
- ・卒業前より、各種卒後臨床研修のインフォメーションを実施した。

###### 【柔道整復学科】

- ・退学の未然防止として、新入生を対象とした学習前教育、欠席学生や成績不振者への早期の面談や指導、1年次を対象とした基礎ゼミの開講、の3点を重点的に取り組んだ。
- ・学生の向学心のサポートとして1年次昼間コースと夜間コースを対象に日本 ACLS 協会認定資格取得講座を開講した。
- ・2年次アドバンスコースにおいてアメリカ研修を平成30年3月に実施した。大きな事故もなく無事に終了し、学生の大きな成長も実感する事ができた。
- ・臨床実習の一環として、附属みどりの風クリニックでの実習を実施している。臨床現場の空気を肌で触れる事ができる大切な機会となっている。
- ・平成30年度からの新カリキュラム導入に伴う外部実習の内容の検討と実習先の精査を行っている。

##### ③国家試験対策

###### 【鍼灸学科】

- ・平成30年度からの新カリキュラムにおいて、1年次から国家試験を意識した授業展開ができるよう検討を行った。

- ・従来通り国家試験対策ドリルも実施している。ドリルの提出者は増えたが、熱心な提出者の中で、不合格者がみられたのは平成 30 年度以降の検討材料としたい。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾と銘打ったゼミを開講している。森ノ宮塾出席者の合格者を多数輩出できるよう取り組んでいきたい。

**【柔道整復学科】**

- ・国家試験合格へのサポートとして模擬試験、日めくりドリル、小テストドリルなども引き続き実施し、早くから弱点を見極め、克服できるよう指導を行っている。
- ・鍼灸学科と合同で国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾を開講している。

**④社会貢献**

**【鍼灸学科】**

- ・9月30日に森ノ宮駅前にて、社会人を対象としたヨガ・スイーツとコラボしたツボ講座を実施した。

**【柔道整復学科】**

- ・1年次生を対象に開講しているエッセンシャル・プロジェクトデザインゼミの活動から、10月28日と11月25日の2日間、Morinomiya Active Kids Project「ケガを防ぐ身のこなしを学ぼう」教室を開催し、近隣の親子6組の参加があった。

**⑤学術活動**

**【鍼灸学科】**

- ・10月11日の平成29年度公益社団法人東洋療法学校協会学術大会を主管校として実施。当日は多数の参加者により会場は大盛況となった。

**【柔道整復学科】**

- ・5月21日に外傷をテーマとした森ノ宮柔道整復学術集会を開催した。今年度で10回目の節目を迎え、柔道整復師の研修、交流の場として定着してきた。

**⑥教職員研修**

**【鍼灸学科】**

- ・12月より月に1回、Word・Excel講座を実施。他部署の教職員の参加も可能となっている。

**【柔道整復学科】**

- ・教員の授業や臨床実習に対する資質の向上を目指し、各教員がそれぞれ研究活動に取り組んでいる。学会や論文の発表も盛んである。

**2) 事務関係事業**

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善や経費削減について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

**【教務部】**

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」を例年通り春季ならびに秋季講座を開催し、春季13名、秋季6名が受講した。
- ・NESTA パーソナルトレーナー資格取得講座ならびにフォローアップセミナーを開催した。資格取得講座は24名が受講した（募集定員20名）
- ・16件の施術所を訪問した。業界の現状や卒業生の近況等の情報収集のほか、実習先の新規開拓も行えた。
- ・2月5日に例年通り日本赤十字血液センターから献血車が来訪。約50名の学生、教職員が献血活動に協力した。
- ・連携協定を締結している社会体育専門学校の医療特修コースの学生4名がダブルスクール入学審査を受け、鍼灸学科夜間コースに入学した。

- ・近江高校柔道大会に1日当たり4名の救護スタッフを派遣し、2日間で40名超の高校柔道部員の外傷処置にあたった。
- ・柔道整復学科1年次生を対象に開講しているエッセンシャル・プロジェクトデザインゼミの活動から、10月28日と11月25日の2日間、Morinomiya Active Kids Project「ケガを防ぐ身のこなしを学ぼう」教室を開催し、近隣の親子6組の参加があった。
- ・レッドブル主催のNeymar Jr's Fiveの各地予選（東京、名古屋、大阪、福岡）および決勝大会（東京）にメディカルスタッフ2名を派遣した。（社会貢献）
- ・柔道整復師の情報収集の場として「柔道整復師のためのメディカルショー」を本校校友会が3月21日に開催し、教務部として開催のサポートを行った。170名の参加者を得た。

#### 【学務課】

- ・2年ぶりに就職・開業支援講座を開催した。参加者数は決して多いとは言えなかったが、学生に就職に対する意識を植え付ける目的の一部は達成できた。
- ・卒業後も進路調査を行うことによって、卒業生の進路の把握につながり、就職率のより正確な値を確認する事ができた
- ・16時30分からの時間帯を利用し、ミニ就職ガイダンスを4回にわたって実施し、高卒生を中心に36名の参加があった。

#### 【管理課】

- ・玄関前照明の入替をおこない、夜間の校舎周りが明るくなった。
- ・玄関自動ドアのオーバーホールを行った。
- ・北館エレベーターのリニューアル工事を行い、校舎内の移動が快適となり、授業開始前のエレベーターの混雑も幾分緩和された。
- ・本校舎3階、4階の空調機器の更新工事を行い、これまでにあった異臭などの苦情が発生しなくなった。
- ・本校舎6階605教室のスクリーンを電動のものへ入れ替えを行った。これによりスクリーンの使用時にスクリーンの痛みも軽減されると思われる。併せて音響ミキサーの入替も行った。
- ・7階講堂の補修、整備を行い、平成29年度の卒業式も無事に挙げる事ができた。

#### 【経理課】

- ・部署別コスト等の把握およびコストの適正化手法を検討した。予算計上時に部門相違・勘定科目相違・予算未計上などを洗い出し適正部署にて計上したため、予算書も以前に比べれば精度も向上した。また、予算執行状況も2カ月遅れではあるが開示することは可能となった。
- ・経理業務の効率化、小口資金管理ならびに出版部会計の適正処理を行った。学費部分については学費ソフトのマスターの見直しを行い業務効率が上がった。また、定型仕訳仕訳の登録は昨年度に引き続き行った。小口資金の管理についても専門学校・ERP下鴨南治療院・出版部と年度末も相違なく完了した。会計処理の段階で売掛金を細分化することで、出版部の売掛金は業者別等で分けることが可能になった。また、過年度まで遡り売掛金の内容や詳細まで経理課で把握出来るようになった。
- ・学納金の未納者への対応や延納前の事前相談の周知徹底など未収入金の減少に努めた。納付期日を過ぎた学生はすぐに対応した結果、年度末も未納額は3名67万円と前年度に比べ157万円減少した。再三、連絡を取ってもなかなか届出を提出しない学生についても根気強く接した結果、延分納届を提出しないで延納する学生はゼロだった。
- ・経理課職員の育成として会計ソフト開発会社のシティーアスコムの研修に参加した。また、ルーティーン業務についてもジョブローテーションを行いリフレッシュ休暇取得、連続休暇を取得できるような体制とした。
- ・固定資産の管理業務として、専門学校、日本語学校準備室、ERP治療院、診療所について登録・除却を行った。

#### 【広報課】

- ・公式 web サイトの管理を行い、82,991 件のアクセス数を得た。
- ・公式 web サイトのリニューアルを実施した。
- ・SNS の運営
- ・フリーペーパー「ここ+から」を今年度も 4 回の発行を行った。
- ・スポーツセミナーを 4 回開催し、のべ 46 名の参加があった。
- ・ウェルエイジング講座を 3 回開催し、のべ 67 名の参加があった。
- ・ツボ講座を 1 回開催し、7 名の参加があった。
- ・NESTA パーソナルフィットネストレーナー資格取得講座の開催を行った。
- ・スパワールドビューティフェアへの参画
- ・出張授業 24 回の実施

#### 【企画課】

- ・ERP 下鴨南治療院の運営に関する業務。運営における連携団体の確保に努め、精華高校サッカー部からの医療サポートの依頼があった。また、吉田児童館に対して小児鍼の普及の他、年間通じての健康講座を提案したところ前向きな回答があり、今後実施に向けて打合せの予定。さらに、少女サッカー教室の TechneFFA との連携を目指して活動を開始。
- ・近江高校柔道大会救護体制の充実を図った。実習現場の可能性、および適正な救護スタッフ数を判断するため、昨年より多くの教職員に参加してもらった。
- ・他部署のシステム（遅刻届、入試、依頼状）のサポートも昨年度に引き続き行った。
- ・大阪社会体育専門学校との連携協定による効果として、費用を支出せずに高校訪問をする人員の確保、ならびに、鍼灸学科夜間コースに 4 名の受験生の確保が可能となった。
- ・古本募金活動も引き続き実施している。金額は低いものの、古本募金額は 46 冊、2,380 円となっている。

#### 【学術部】

- ・学術活動に対する研究費の支援として前年度実績に基づいて個人学術研究費を適切に配分したが、十分な利用は行われなかった。
- ・学術活動に対する学術的支援については今年度は学術活動実績が少なく、学会および論文発表の支援についても十分に行われなかった。
- ・倫理委員会の運営においては、平成 28 年度より研究倫理審査も開始しており、今年度も適切な倫理審査が行われた。
- ・学術活動の成果の発信としてホームページで今年度の学術活動を報告した。

#### 【図書室】

- ・図書委員会の運営については課題が残った。
- ・今年度の新規図書の購入事業については選定、購入ともに今一つとなった。既に充実した蔵書として自負しているが、一層活性化したい。
- ・蔵書点検も滞りなく行われた。
- ・文献検索オンラインシステムについては以前より十分な利用が行われておらず、次年度以降契約を行わないこととした。

### 3) 広報事業

広報事業については、主に下記の事業により行われた。入学者数、来校者数とも、昨年度から増加し、本校の魅力を伝える事ができたと言える。

- ・高校ガイダンスへの参画
- ・高校訪問
- ・パンフレット、入試要項、各種DM、社会人向けリーム、保護者リーフ等各種制作物の制作
- ・オープンキャンパス、授業見学、入試対策、個別相談等

- ・進学情報誌・サイトへの広告出稿
- ・SNS での情報発信
- ・電柱広告の実施
- ・地下鉄アナウンス広告の実施
- ・各種協会への協賛

(2) 事業成果の概要

①在籍学生数

(単位：人)

平成 30 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)									
鍼灸学科	昼	72	3	0	56	1	0	74	11	1	202	15	1
	夜	21	1	0	16	0	0	14	3	0	51	4	0
柔道整復 学科	昼	58	2	0	41	2	0	68	6	1	167	10	1
	夜	18	0	0	10	0	1	9	2	0	37	2	1
合計		169	6	0	123	3	1	165	22	2	457	31	3

\*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

平成 29 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)									
鍼灸学科	昼	66	2	0	65	4	1	81	8	0	212	14	1
	夜	18	0	0	12	1	0	22	1	0	52	2	0
柔道整復 学科	昼	50	4	0	72	6	1	69	8	0	191	18	1
	夜	10	0	0	11	2	2	21	4	0	42	6	2
合計		144	6	0	160	13	4	193	21	0	492	40	4

\*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

平成 28 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)									
鍼灸学科	昼	71	3	0	80	5	1	65	6	0	216	14	1
	夜	14	1	0	21	4	1	25	6	0	60	11	1
柔道整復 学科	昼	78	2	0	74	4	0	67	8	1	219	14	1
	夜	8	0	0	21	2	2	21	6	0	50	8	2
合計		171	6	0	196	15	4	178	26	1	545	47	5

\*留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
退学者数	47	42	51	34	38
退学者比率	5.3%	5.8%	7.8%	6.2%	7.6%
在学生数	879	725	656	545	498

③志願者数の推移

(単位:人)

入学年度		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
学科	コース	志願者						
鍼灸	午前	74	62	39	45	50	56	42
	アド(医療)	19	11	5	13	4	-	-
	昼間	51	41	33	21	27	18	33
	夜間	52	44	33	21	16	20	21
	未定	-	-	-	19	-	-	-
柔整	アドバンス	44	43	28	34	25	23	32
	昼間	96	69	58	52	54	26	26
	夜間	69	60	25	22	9	11	22
	未定	-	-	-	6	-	-	-
合計		405	330	221	233	185	154	176

※アド(医療)…アドバンスコースもしくは医療資格者コース

④国家試験合格率の推移

<平成 29 年度>

はり師きゅう師 国家試験 (第 4 3 期)

国家試験成績		平成 2 9 年度 (第 2 6 回) 3 0 年 2 月 実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	はり師	79	61	77.2%
	きゅう師	79	64	81.0%
当校のべ受験者	はり師	133	66	49.6%
	きゅう師	131	70	53.4%
全国平均	はり師	4622	2667	57.7%
	きゅう師	4555	2845	62.5%

柔道整復師国家試験 (第 1 6 期)

国家試験成績		平成 2 9 年度 (第 2 6 回) 3 0 年 3 月 実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	柔道整復師	68	47	69.1%
全国現役受験者	柔道整復師	4261	3346	78.5%
当校のべ受験者	柔道整復師	136	53	39.0%
全国のべ平均	柔道整復師	6321	3690	58.4%

<平成 28 年度>

はり師きゅう師 国家試験 (第 4 2 期)

国家試験成績		平成 28 年度 (第 25 回) 29 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	はり師	72	56	77.8%
	きゅう師	72	56	77.8%
当校のべ受験者	はり師	122	69	56.5%
	きゅう師	120	68	56.6%
全国平均	はり師	4528	3032	67.0%
	きゅう師	4444	3010	67.7%

柔道整復師国家試験 (第 1 5 期)

国家試験成績		平成 28 年度 (第 25 回) 29 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	柔道整復師	65	54	83.1%
全国現役受験者	柔道整復師	4527	3789	82.9%
当校のべ受験者	柔道整復師	141	68	48.2%
全国のべ平均	柔道整復師	6727	4274	63.5%

⑤ 就職状況

●本校に対する求人倍率

本校の職業紹介利用者	本校の求人倍率	全国の求人倍率 (参考)
45 人	73.6 倍	1.50 倍

●初任給平均額

<<正社員>>

	月給平均 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	求人数 (件)
鍼灸師	198,980	300,000	60,000	712
柔道整復師	205,427	300,000	120,000	800
学生	166,107	250,000	80,000	152

<<アルバイト>>

	時給平均 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	求人数 (件)
鍼灸師	1046	1,800	800	255
柔道整復師	1062	2,000	786	265
学生	931	1,800	786	321

#### 4. 森ノ宮医療学園附属診療所

##### 4-1. みどりの風鍼灸院

###### (1) 人員

平成 29 年度は常勤 4 人、非常勤（教務：木曜日午後、金曜日午前診）2 人の 6 人体制で対応した

###### (2) 鍼灸院業務日数

①診療日数	239 日
②休診日	
a) 土曜・日曜・祝日	118 日
b) 夏期休診日	3 日 (8/14・15・16)
c) 年末年始休診日	6 日 (12/29～1/3)
d) みどりの風鍼灸院：開院記念日	1 日 (6/1)

###### (3) 鍼灸院行事

- ①日本東洋医学会学術総会（愛知県名古屋市）：3 日間（平成 29 年 6 月 2 日～4 日）
- ②全日本鍼灸学会学術大会（東京大会）：2 日間（平成 29 年 6 月 10 日・11 日）
- ③日本臨床鍼灸懇話会全国集会（大阪大会）：2 日間（11 月 25 日、26 日）
- ④みどりの風鍼灸院「東洋医学基礎ゼミ」（専門学校 2・3 年対象）
- ⑤毎月第 1 月曜日：クリニック・鍼灸院合同定例会議（AM 8:00 ～）

###### (4) 鍼灸院学術活動

- ①学会発表・活動
  - a) 日本臨床鍼灸懇話会（場所：森ノ宮医療大学）：平成 29 年 9 月 3 日（日）  
「アトピー性皮膚炎に対する小児はりの 2 症例－弁証に基づく小児はり法－」
  - b) 日本臨床鍼灸懇話会（場所：森ノ宮医療大学）：平成 29 年 9 月 3 日（日）  
「臀部の痛みを伴う前立腺炎の 1 症例」
- ②基礎ゼミ  
「東洋医学基礎ゼミ」（専門学校 2・3 年対象、毎月・金曜日、通年）

###### (5) 鍼灸院診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00～11:00	○	○	○	○	○	×
午後診 1:30～4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30～7:30	○	○	×	○	○	×
休診日	土曜日、日曜日、祝日					

###### (6) 鍼灸学科臨床実習

- ①鍼灸学科臨床実習プログラムの進行  
従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。
- ②実習参加時間帯
  - ・昼間・医療資格コース（1～3年）：午前診
  - ・夜間コース（1～3年）：午後診
  - ・午前コース（1年）：午後診

- ・午前コース（2年） : 午後診
- ・午前コース（3年） : 午後診と夜診のスクランブル

③臨床実習の向上について

鍼灸学科学生の鍼灸実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る

- a) 1回/月：鍼灸院院長と鍼灸学科学科長の定例ミーティングを実施。
- b) 前年度と同様に臨床実習と鍼灸実技授業のリンクと技術向上を狙って、鍼灸学科前期の1年生実技試験において鍼灸院スタッフ2名が血圧測定の評価を行った。（血圧測定は1年次の臨床実習プログラムである）

(7) 卒後研修制度実施について

- ①平成29年4月から新たに5名の卒業生(平成29年3月卒業)を受け入れ最長2年間の卒後臨床研修を開始した。(1年間:0名、2年間:5名)
- ②平成29年4月から国民のための鍼灸医療推進機構(AcuPOPJ)が主催する鍼灸師卒後臨床研修を実施。新たに5名の鍼灸師が2年間の研修を行う。  
※国民のための鍼灸医療推進機構(AcuPOPJ)は4つの団体が協力して設立した任意団体である。(①公益社団法人 日本鍼灸師会、②公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会、③公益社団法人 全日本鍼灸学会、④公益社団法人 東洋療法学校協会)
- ③研修生は合計7名:(内:研修2年目の最終年が2名)

(8) 入学前の鍼灸治療体験の導入(導入2年目)

近年の鍼灸学科入学者において一度も鍼灸治療を経験したことがない学生が増加傾向にある。そこで、専門学校鍼灸学科の入学内定者に対して、入学者本人と本人の家族1名の無料体験を実施した。平成29年度24名:内家族6名(前年度16名:内家族3名)が受療を体験した。

(9) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園在学生患者の獲得

患者数の増加のための具体的な方策の一つとして森ノ宮医療学園の学生患者の増加を図った。平成26年4月より学生患者獲得のために施術料金を一部変更した。

- ・臨床実習に協力して頂ける学生患者の施術料金・・・・・・500円
- ・上記以外の学生施術料金は現行通り・・・・・・2,000円

平成29年度と前年度の学生患者数比( : 人)

	平成28年	平成29年
4月	85	89
5月	97	118
6月	112	149
7月	99	97
8月	85	87
9月	103	129
10月	105	140
11月	101	137
12月	91	137
1月	112	128
2月	108	119
3月	131	84
計	1229	1414
	<b>前年度比</b>	<b>185</b>

平成29年度の学生患者数1,414人(約117/月人)と昨年度1229人と比べて185人増。

(10) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園卒業生患者の獲得対策

学生患者が卒業後もリピーターとなるように卒業生の施術料金改定を実施した。

平成 27 年 4 月より卒業生患者の施術料金を一部改訂した。

- ・臨床実習に協力して頂ける卒業生患者の施術料金・・・1,500 円
- ・上記以外の卒業生施術料金は現行通り・・・3,300 円

平成 29 年度と前年度の卒業生患者数比（：人）

	平成28年	平成29年
4月	26	38
5月	29	39
6月	23	39
7月	39	35
8月	40	33
9月	44	39
10月	31	37
11月	26	40
12月	33	34
1月	29	36
2月	31	35
3月	31	34
計	382	439
	前年度比	57

平成 29 年度の卒業生患者数 439 人（約 36／月人）と昨年度 382 人と比べて 57 人増。

(11) 鍼灸療養費払い（鍼灸保険）について

- ・鍼灸療養費払い（鍼灸保険）導入の趣旨

1973 年 4 月に大阪鍼灸専門学校開校。1982 年 4 月に大阪鍼灸専門学校附属施術所鍼灸室開院。2000 年 11 月に森ノ宮医療学園附属施術所開院。2010 年 1 月にみどりの風鍼灸院を開院した。約 36 年間鍼灸施術費はすべて自費で行ってきた。自費治療を行ってきた主な理由は、専門学校附属鍼灸施術所の周辺地域で開業している鍼灸院の施術料金より安価にならないことが大前提だったからである。

昨今、鍼灸養成学校（専門学校、大学）卒業後において、自費治療と鍼灸療養費払いの併用で開業している鍼灸院は少なくない。

そこで、「鍼灸療養費払い（鍼灸保険）の基本と実際」を附属鍼灸施術所で本学園専門学校鍼灸学科として教育・指導するという必要性があると考え、平成 29 年度から新たに鍼灸療養費払いを導入するために準備を進めた。

まずは、鍼灸学科在学生や卒業後研修生に対する“鍼灸療養費制度”の教育に重きを置いて行く。附属施術所の鍼灸院スタッフが、正しい償還手続きをしっかりと理解することから始めて行く。特に、同意書においては、患者さんがいつもお世話になっている“かかりつけの医師”に「鍼灸での治療を受けたい」と伝えて同意書を発行していただけるか、相談していただくことを大前提として進めて行った。

(12) 平成 29 年度患者動向と前年度比について

①年間総患者数について

H29 年度年間総患者数は 4,670 人（月平均約 389 人）となる。前年度 H28 年の 4,687 人と比べて 17 人減（月平均 1.4 人減）と患者数は減少したもののほぼ同等である。

②年間一般患者数について

H29 年度年間利用者総数は 2,817 人（月平均約 234.7 人）となる。前年度 H28 年の 3,076 人と比べて 259 人減と一般患者数は減少した。

③年間学生患者数について

H29 年度年間利用者総数は、1,414 人（月平均約 117.8 人）となる。前年度 H28 年の 1,229 人と比べて 185 人減と学生患者数は増加した。

④年間卒業生患者数について

H29 年度年間利用者総数は 439 人（月平均約 36.5 人）となる。前年度 H28 年の 382 人と比べて 57 人増と卒業生患者数は増加した。

⑤年間新患者について

H29 年度年間新患者数は 134 人で前年度 H28 年の 126 人と比べて 8 人増加した。

平成 29 年度と前年度の患者動向について

単位：人

	平成28年度				平成29年度			
	全体患者(新患)	一般患者	学生患者	卒業生患者	全体患者(新患)	一般患者	学生患者	卒業生患者
4月	365(10)	254	85	26	347(9)	220	89	38
5月	397(20)	271	97	29	393(17)	236	118	39
6月	396(10)	261	112	23	438(12)	250	149	39
7月	397(12)	259	99	39	380(10)	248	97	35
8月	369(8)	244	85	40	363(8)	243	87	33
9月	436(15)	289	103	44	422(6)	254	129	39
小計	2360(75)	1578	581	201	2343(62)	1451	669	223
10月	405(9)	269	105	31	411(10)	234	140	37
11月	400(4)	273	101	26	400(9)	223	137	40
12月	359(7)	235	91	33	396(11)	225	137	34
1月	364(3)	223	112	29	373(11)	209	128	36
2月	386(12)	247	108	31	351(9)	197	119	35
3月	413(16)	251	131	31	396(22)	278	84	34
小計	2327(51)	1498	648	181	2327(72)	1366	745	216
計	4687(126)	3076	1229	382	4670(134)	2817	1414	439
				前年度比	▲17(8)	▲259	185	57

(13) 平成 29 年度と前年度の患者数と施術現金収入動向について

平成 29 年度鍼灸施術現金収入は、9,629,300 円。前年の 9,960,000 円と比べて 330,700 円減少した。（前年度比約 3.3%減）

平成 29 年度と前年度の患者数と鍼灸施術現金収入動向について

	平成28年度		平成29年度	
	患者数(新患)：人	施術収入	患者数(新患)：人	施術収入
4月	365(10)	¥828,600	347(9)	¥753,900
5月	397(20)	¥918,200	393(17)	¥833,900
6月	396(10)	¥862,500	438(12)	¥884,800
7月	397(12)	¥845,400	380(10)	¥837,400
8月	369(8)	¥736,500	363(8)	¥816,700
9月	436(15)	¥921,600	422(6)	¥864,900
小計	2360(75)	¥5,112,800	2343(62)	¥4,991,600
10月	405(9)	¥830,700	411(10)	¥807,700
11月	400(4)	¥846,800	400(9)	¥779,700
12月	359(7)	¥744,100	396(11)	¥773,300
1月	364(3)	¥729,700	373(11)	¥745,200
2月	386(12)	¥828,700	351(9)	¥681,200
3月	413(16)	¥867,200	396(22)	¥850,600
小計	2327(51)	¥4,847,200	2327(72)	¥4,637,700
合計	4687(126)	¥9,960,000	4670(134)	¥9,629,300
		前年度比	▲17(8)	▲¥330,700

## 4-2. みどりの風クリニック

### 1. 活動実績

#### 1) みどりの風クリニック診療時間

前年度に引き続き下記の通り診療業務を実施している。

##### (1) 整形外科

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	
13:30～16:00	×	×	×	予約制 (再診)	×	×
16:30～19:30	●	●	×	●	●	×

##### (2) 内科・循環器内科・漢方内科

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	×
13:30～16:00	●	●	●	●	●	×
16:30～19:30	×	×	×	×	×	×

#### 2) 森ノ宮医療学園の学生臨床実習実施状況

下記の通り、各学生臨床実習を実施した。

##### (1) 森ノ宮医療大学

・鍼灸学科 学外見学実習

平成29年4月13日～平成29年7月6日

学生30名受入

##### (2) 森ノ宮医療学園専門学校

・柔道整復学科 臨床実習

平成29年4月1日～平成30年3月31日まで

対象：柔道整復学科2年昼間部・夜間部、3年昼間部・夜間部の全学生  
学生計212名受入

リハビリテーション科での臨床実習のみならず、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科の診察見学、放射線科の見学、医事課の見学も行った。

下記の要項の通り、研修生を受け入れた。

##### (1) 卒後臨床研修の趣旨

卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

##### (2) 対象

柔道整復師

##### (3) 人数

3名

##### (4) 研修施設

森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック

##### (5) 主な特徴

- ・多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
- ・医療機関との連携の必要性を学ぶ
- ・柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学ぶなど

##### (6) 研修内容

- ・リハビリ室での見学
- ・運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷等外傷のギブス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。

(7) 研修期間

週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。

(8) 卒後臨床研修コース概要

見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。

外部コース（他校卒業生）は見学実習のみを予定している。

3) 外部実習生の研修受入状況

下記の通り、各部門において外部実習生の研修を行った。

(1) 整形部門

前年度に引き続き AT 長島治療院より、施術スタッフ 15 名の技能および資質向上を目的として、毎週月曜日の夜診帯に 2 名ずつ交代で 1 年間の見学研修を受け入れている。

4) 健康診断等の実施状況

下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。

(1) 学生健診の受入

- ・実施日時：平成 29 年 4 月 12 日
- ・実施人数：専門学校学生 461 名

(2) 教職員健診の受入

- ・実施日時：平成 29 年 7 月 3 日～8 月 18 日
- ・実施人数：大学 100 名、専門学校 35 名、診療所 17 名

(3) インフルエンザ予防接種実施

- ・実施期間：平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日まで
- ・実施人数：142 名（一般患者、学生および教職員）

5) トレーナー活動との連携強化

現在、当クリニックでは、宮崎医師と親交のある今福トレーナー、所トレーナーを通じ、下記、当該チームのメディカルチェックを含め医療面のサポート体制の保持に努めている。

- (1) 社会人野球 日本新薬(株) 硬式野球部
- (2) 高校野球 近畿大学附属高校 硬式野球部

その他、専門学校教員の関与する各種スポーツ部門のチームからの依頼に対しては、臨機に対処するように努めている。

尚、参考ではあるが、当クリニックリハビリ科員の理学療法士である池上は、滝川第二高校、および、大阪工業大学の硬式野球部コーチに就任している。

6) 医療スタッフの学術活動状況

(1) 学術発表

- ・第 66 回 日本病院理学療法学会学術大会（平成 29 年 5 月 19～21 日）  
発表者：柔道整復師 大森・村上・馬場

(2) 学術参加状況

- ・第 114 回 日本内科学会（平成 29 年 4 月 14～16 日）
- ・2017 年アスリートケア講習会（平成 29 年 4 月 15 日）
- ・メディカルスタッフのための股関節鏡セミナー（平成 29 年 4 月 29 日）
- ・日本プライマリケア連合学会（平成 29 年 5 月 12～14 日）

- ・京都医療科学大学総会（平成 29 年 5 月 13～14 日）
- ・ロコモペイニンググループセミナー（平成 29 年 5 月 14 日）
- ・第 66 回 日本病院理学療法学会学術大会（平成 29 年 5 月 19～21 日）
- ・第 9 回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（平成 29 年 6 月 22～24 日）
- ・全病理近畿地方会課題講習会（平成 29 年 7 月 30 日）
- ・畿央大学運動器リハビリテーションセミナー（平成 29 年 7 月 30 日）
- ・脳画像セミナー（平成 29 年 9 月 30 日、11 月 11 日）
- ・全国理学療法協会 近畿地方会課題講習会（平成 29 年 10 月 15 日）
- ・第 57 回アットイーズセミナー（平成 29 年 10 月 22 日）
- ・第 26 回日本柔道整復接骨医学会（平成 29 年 11 月 3～4 日）
- ・第 31 回日本プライマリ・ケア連合学会（平成 29 年 11 月 26 日）
- ・京都大学運動機能セミナー2017（平成 29 年 12 月 10 日）
- ・野球人のカラダを考える会（平成 30 年 1 月 8 日）
- ・第 23 回スポーツ傷害フォーラム（平成 30 年 1 月 20 日）
- ・ohsbi 健康運動セミナー2018（平成 30 年 2 月 24～25 日）
- ・後輩学生指導・育成セミナー（平成 30 年 3 月 10 日）
- ・第 82 回日本循環器学会学術集会（平成 30 年 3 月 23～25 日）

(3) 加入団体

- ・日本医師会
- ・大阪府医師会
- ・東成医師会
- ・日本診療放射線技師会
- ・大阪府放射線技師会
- ・全国病院理学療法協会
- ・日本柔道整復接骨医学会
- ・日本理学療法協会
- ・日本消化器関連学会
- ・日本内科医学会
- ・JOSKS
- ・日本看護協会
- ・大阪府看護協会

2. 保険診療状況

1) 患者動向実績

患者数について、内科部門が前年度に引き続き減少（前年度比約▲19%）したが、整形部門の増加（前年度比約 8%）によって、全体では前年度を上回る（前年度比約 4%）結果となった。

平成29年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:円

月	日数	全体		内科			整形			
		患者数	初診	再診	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診
	238	31,610	3,559	28,051	3,995	747	3,248	27,615	2,812	24,803
計	237	30,485	3,234	27,251	4,904	709	4,195	25,581	2,525	23,056
	1	1,125	325	800	▲ 909	38	▲ 947	2,034	287	1,747

2) 保険診療実績

保険請求額は患者動向と同様に、内科部門が前年度に引き続き減少（前年度比約▲24%）したが、整形部門の増加分（前年度比約11%）によって、全体で前年度を上回る（前年度比約5%）結果となった。

平成29年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:円

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
	238	31,610	143,419,460	4,537	3,995	19,800,840	4,956	27,615	123,618,620	4,477
計	237	30,485	137,152,390	4,499	4,904	26,146,660	5,332	25,581	111,005,730	4,339
	1	1,125	6,267,070	38	▲ 909	▲ 6,345,820	▲ 375	2,034	12,612,890	137

※平均単価は端数を四捨五入

3) 自由診療状況

健康診断・予防接種・特定健診・自賠責等の自由診療については、20,385,104円となり、前年度の12,361,430円を約800万円（前年度比約65%増）上回る結果となった。

## 5. 森ノ宮医療学園出版部

### (1) 概況報告

平成 29 年の実績としては、看板雑誌である『鍼灸 OSAKA』4 号を発行した。またロングセラーの『臓腑経絡学』は在庫ゼロのため増刷したが、その他の書籍については、企画凍結および 30 年度への繰越となった。また、教科書販売については、今年度から新入生教科書が贈呈となったことに伴い、専門学校（両学科）への直売となった。

結果として、売上は 33,688,190 円、予算（49,565,500 円）比で 67.9%達成という結果となった。しかし収支で見ると、経費減により、877,218 円の黒字となった。

販売促進への取り組みとしては、クレジット決済導入により、鍼灸 Osaka 絶版号のデジタル（PDF）版の売上げも軌道に乗り、また、校友会室との連携により学内販売も好反響で鍼灸 Osaka をはじめ書籍の PR はもちろん売上也伸びることができた。平成 30 年度は引続き秋を目途に内容を検討し実施する予定である。

出版部事業としては、東洋医学・日本鍼灸の PR はもとより、英語版の発行に向けた第一歩として、房前副部長の尽力により、専門学校の提携校である FCIM（フロリダ統合医療大学）をはじめ AOMA（テキサス）、サラマンカ大学日本文化センター（スペイン）へ鍼灸 Osaka ならびに単行本を寄贈した。またアルゼンチンからの研修生受け入れについても 31 年度実施に向けて取り組みをスタートした。

出版部の体制としては、懸案であった『鍼灸 Osaka』の鍼灸臨床専門誌としての新たな展開、さらに日本の鍼灸医療業界の発展拡充を目指した新たな冊子を業団発行の下で制作ことが決定、また Web サイトも出版独自のサイトを立ち上げるようになった。これら大幅な改編のもと、平成 30 年度は経営基盤の確立とともに、新たな人材確保とその育成を目標とする。

## 2. 制作・出版物報告

- 1) 「鍼灸 OSAKA」の発行（125～128 号／125・126 号：1500 部 127・128 号：1300 部 発行）

No	発行日	特 集
第 125 号	2017/6/2 発行	依存症への鍼灸治療/鍼灸学の構築に向けて
第 126 号	2017/10/5 発行	伝統医療振興基本法を考える/灸頭鍼
第 127 号	2017/12/15 発行	パーキンソン病と鍼灸/英語で伝える鍼灸
第 128 号	2018/03/26 発行	鍼灸研究の最前線/アトピー性皮膚炎

- 2) 平成 29 年度発行の単行本等編集・制作

- \* 「校友会報」（年 1 回 No. 16）・グリーティングカード 1 点・DVD 1 点
- \* 「臓腑経絡学」（改定第 4 版）

- 3) 平成 30 年度継続・新規制作予定の出版物

- \* 『中国針灸学術史大綱』（黄龍祥著 日本語訳）：第 1 巻出稿および第 2 巻校閲進行中
- \* 『漢文で読む霊枢』改訂増補版
- \* 『もっと身近にアロマセラピー』（改定増補版）

### 3. 平成 29 年度事業計画進捗状況

	29 年度計画制作物・事業	実績・進捗状況	
季刊誌	鍼灸 OSAKA125	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA126	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA127	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA128	発刊	了
書籍販売	教科書・参考書販売	予定通り完了	了
書籍販売	図書室図書販売	—	—
単行本	中国針灸学術史大綱第 1 巻	30 年度に校了予定	継続
単行本	はりきゅう Q&A	出版予定を凍結	—
単行本	経絡経穴取穴 Study	出版予定を凍結	—
デジタル	鍼灸 OSAKA 絶版号	29 年度発売実施	了
デジタル	鍼灸臨床ポケットガイド アプリ	30 年度内容検討	継続
制作受託	校友会報	制作済み	了
	DVD (坂本豊次先生)	29 年度発行	了

### 4. 売上報告

#### ● 29 年度月別売上 (単位:円)

月	売上額 (円)	33,688,190			
4 月	7,892,957	8 月	399,098	12 月	1,791,882
5 月	5,947,830	9 月	4,370,386	1 月	2,401,104
6 月	2,673,964	10 月	2,709,297	2 月	298,310
7 月	499,616	11 月	1,891,648	3 月	2,812,098

#### ● 商品別売上 (単位:円)

商品分類	比率 (%)	売上高 (29 年度)	28 年度比 (%)	売上高 (28 年度)
単行本	14.9	5,017,402	25.8	5,428,931
鍼灸 OSAKA	23.6	7,920,980	39.0	8,203,814
手数料 (教科書)	4.5	1,506,879	14.0	2,935,636
図書室図書	0	0	0	0
教科書	35.5	11,967,307	2.2	465,888
制作費・編集費	15.6	5,248,392	10.1	2,133,780
抜刷	0.3	106,320	1.0	207,634
広告料	0.8	268,800	4.4	922,560
送料	2.6	889,659	3.2	665,741
他社出版物	0.3	101,022	0.1	21,600
その他	1.9	661,429	0.2	17,000
	100	33,688,190	100	21,002,584

●鍼灸 OSAKA 売上

バックナンバー (BN)	29年度 売上件数	金額 (円)	28年度 売上件数	金額 (円)
鍼灸 O S A K A	4730	7,920,980	4801	8,203,814
(セット 124号まで)	(2)	(418,205)	(0)	(0)
計	4730	7,920,980	4801	8,203,814
前受金 (売上振替未分)	307	563,345	416	768,600
定期購読数	29年度	28年度		
新規定期購読	12	10		
学生定期購読	508	502		
定期購読 (継続)	217	236		
盲学校等学校定期購読	33	31		
計	770	768		

●取引先別売上げ

顧客	売上	比率
書店	1,647,812	4.8
学生	272,624	0.8
森ノ宮医療学園関係	21,324,036	63.2
取次	3,190,497	9.4
個人	2,751,488	8.7
校友会	2,183,399	6.4
業者	437,790	1.3
ネットショップ	1,338,978	3.9
他校 (盲学校含む)	207,146	0.6
その他	334,420	0.9
計	33,688,190	100

●単行本売上

刊	タイトル	売上数	売上額 (円)	売上比率 (%)
既刊	臓腑経絡学	290	892,992	17.8
既刊	ツボ暗記カード	403	1,067,028	21.2
既刊	ポケット鍼灸臨床ガイド	299	708,704	14.1
既刊	ツボ暗記カードアプリ	245	901,000	17.9
既刊	柔道整復理論サブノート	164	439,506	8.7
既刊	このツボが効く-先人に学ぶ 75名穴	117	236,002	4.7
新刊	胃の気の脈診	60	274,688	5.4
既刊	インテリジェントボディ CD	63	109,173	2.1
既刊	もっと身近にアロマセラピー	109	122,492	2.4
既刊	健康で知的なからだをつくる 51のレッスン	35	68,839	1.3
既刊	はりきゅうロード	23	57,302	1.1

売上額 5 万以上を記載 \*比率は単行本売上に対するもの

## 5. 営業活動

### ● 主な展示販売

(単位:円)

展示会名	場所	販売期間	出張者および主担当	売上	出展料
第 66 回全日本鍼灸学会	東京	平成 29 年 6 月 10 日 ～12 日	廣長	22,800	48,600
第 45 回日本伝統鍼灸学会	金沢	平成 29 年 10 月 13～ 15 日	廣長	38,150	30,000
第 10 回大阪漢方鍼灸 医学セミナー	大阪	平成 29 年 4 月 23 日	廣長	23,940	0
第 11 回小児はり学会	大阪	平成 29 年 10 月 1 日	織田	45,500	0
学内販売	大阪	平成 29 年 11 月 24～ 28 日	北村・廣 長	188,900	0
鍼灸フェスタ	大阪	平成 29 年 8 月 6 日	織田・廣 長	53,040	0
全日近畿支部学術大 会	大阪	平成 29 年 11 月 20 日	廣長・房 前	9,380	5,000
				381,710	83,600

### ● DMによるキャンペーン

校友会会員対象の『鍼灸 OSAKA』バックナンバー割引価格販売キャンペーンを期間限定で 1 回 (3 月) 行った。また専門学校内にて在校生および教職員対象のバックナンバー・単行本割引販売セールを 2 日間の日程で実施した。

### ● 店訪問・営業

学会出展時に開催地を中心として、時間的余裕に応じてその近郊書店を訪問し、出版部発行書籍のPRを行っている。また、新刊発行予定についても、取次書店担当者はもちろん、各小売書店の医学書担当者と対面して事前PRすることで、発行時に委託等注文がスムーズ得られる。

[取扱書店一覧]

#### WEB 書店

Amazon  
Fujisan (鍼灸 OSAKA のみ)  
紀伊国屋 BookWEB セブンネットショッピング ヨドバシカメラ  
メテオメディカルブックセンター YAHOO! ブックス など

#### 店舗

北海道	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 蔦屋書店函館店 丸善札幌南一条店 ジュンク堂書店旭川店	岐阜県	喜久屋書店・大垣店
岩手県	MORIOKATUTAYA	三重県	ワニコ書店
宮城県	アイエ医書センター 丸善・仙台アエル店	京都府	紀伊国屋書店・京都御池店 ジュンク堂書店・京都店 ジュンク堂書店・京都 BAL 店

福島県	八重洲ブックセンター・郡山店		アバンティブックセンター
栃木県	大学書房メビウス	大阪府	紀伊國屋書店・梅田本店
群馬県	喜久屋書店・太田店		紀伊國屋書店・本町店
千葉県	三省堂書店・そごう千葉店		ジュンク堂書店・大阪本店
	丸善・津田沼店		ジュンク堂書店・難波店
	宮脇書店・印西牧の原店		関西医書
東京都	三省堂書店・神保町本店		丸善・なんば OCAT 店
	文進堂		神陵文庫・大阪支店
	東方書店	兵庫県	田村書店・千里中央店
	亜東書店		神陵文庫・本社
	いざわ書林		ジュンク堂書店・三宮店
	燎原書店		ジュンク堂書店・三宮駅前店
	新樹社書林		ジュンク堂書店・姫路駅前店
	丸善・本店	島根県	島根井上書店
	八重洲ブックセンター・本店	岡山県	泰山堂書店
			泰山堂書店・鹿田店
	旭屋書店・池袋店		丸善・シンフォニービル店
			喜久屋書店・倉敷店
	紀伊國屋書店・本店	広島県	井上書店
	紀伊國屋書店・新宿南口店		井上広文館
	ジュンク堂書店・池袋店		フタバ図書・TERA 医書
	たにぐち書店	徳島県	久米書店
	オリオン書房・ノルテ店		久米書店・医大前店
神奈川県	有隣堂・医学書センター	香川県	宮脇書店・本店
	有隣堂・川崎 BE 店		宮脇書店カルチャースペース
	あおい書店横浜店		宮脇書店・南本店
	ACADEMIA・港北店	愛媛県	丸三書店
	ACADEMIA・ちはら台店	福岡県	丸善・福岡ビル店
長野県	明倫堂書店		紀伊國屋書店・福岡本店
新潟県	考古堂書店		紀伊國屋書店・福岡天神店
富山県	文苑堂書店・福田本店		ジュンク堂書店・福岡店
石川県	前田書店		喜久屋書店・小倉店
静岡県	丸善・新静岡店	長崎県	紀伊國屋書店・長崎店
	ガリバー	大分県	ジュンク堂書店・大分店
愛知県	大竹書店	鹿児島県	ジュンク堂書店・鹿児島店
	丸善・名古屋栄店	沖縄県	考文堂
	三省堂書店・高島屋店	韓国	釜山 栄光図書

### Ⅲ. 財務の概要

大学新学科設置用先行投資が一区切りついたこと等により、経常収支差額は 24,302,064 円の黒字（表 1⑥）となり、校友会の施設寄付金等の特別収入を加えた基本金繰入前収支差額は、72,086,651 円の黒字となった（表 1⑧）。

表 1：平成 29 年度決算（事業活動収支計算書）概要

項目		平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	備考
①	教育事業活動収入	3,053,116,762	2,902,086,895	2,739,177,618	-
②	教育事業活動支出	3,022,470,024	2,915,772,498	2,462,650,960	-
③	教育活動収支差額	30,646,738	△13,685,603	276,526,658	1-2
④	教育活動外収入	23,689	3,149,521	2,113,923	-
⑤	教育活動外支出	6,368,363	2,202,506	0	-
⑥	経常収支差額	24,302,064	△12,738,588	278,640,581	3+4-5
⑦	特別収支差額(集計)	47,784,587	44,954,414	△1,671,574	-
⑧	組入前当年度収支差額	72,086,651	32,215,826	276,969,007	6+7
⑨	基本金組入額	△796,408,050	△614,168,081	△2,878,085,848	-
⑩	当年度収支差額	△724,321,399	△581,952,255	△2,601,116,841	8+9
⑪	前年度繰越収入差額	△1,626,145,640	△1,044,193,385	1,556,923,456	-
⑫	翌年度繰越収支差額	△2,350,467,039	△1,626,145,640	△1,044,193,385	10+11

表 2：正味資産の推移

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
正味資産 (総資産-負債)	12,415,502,624 (内流動資産総額 2,771,591,140)	12,343,415,973 (内流動資産総額 2,723,025,512)	12,311,200,147 (内流動資産総額 3,204,480,205)
資産増加額	72,086,651	32,215,826	276,969,007

表 3：主な財務比率

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	備考
経常収支差額比率	-0.8%	-0.4%	10.2%	経常収支差額/経常収入
人件費比率	56.8%	56.6%	52.8%	人件費/経常収入
教育研究経費比率	28.6%	29.4%	23.9%	教育経費/経常収入
管理経費比率	13.6%	14.4%	13.1%	管理経費/経常収入

以上